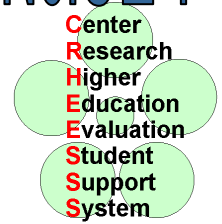


週刊センターニュース No.324



第324号(2010年9月13日) 毎週月曜日発行
発行：金沢大学 大学教育開発・支援センター
URL：<http://www.rche-kanazawa-u.jp/>

○●○ 2010年度第2回FD研究会開催のご案内 ○●○

主催：大学教育開発・支援センター

日時：9月16日(木) 15時～17時 ※開催日時にご注意下さい。

場所：角間キャンパス総合教育1号館2階会議室

テーマ：グループワークを設計する

企画・報告者：青野 透 (大学教育開発・支援センター 教育支援システム研究部門)

趣旨：多人数授業でも設計次第で双方向あるいは多方向の意見交換は可能である。50人～100人くらいまでの科目で実施可能なグループワークの方法を紹介する。15回の授業で1回行うだけでも、学生たちの教室での構えが変化しうる。授業展開にメリハリをつけ、また、学生たちに参加意識、役割意識を惹起する試みについて、参加者間でも体験、アイデアを出し合いたい。

○●○ 2010年度第1回学生・学習支援研究会 ○●○

日時：9月29日(水) 15時—17時 ※開催日時にご注意下さい。

場所：角間キャンパス総合教育1号館2階会議室

テーマ：「角間キャンパス運動施設に関する問題点の把握と対策について(屋外施設)」

企画・報告：北浦 孝 (保健管理センタースポーツ教育部門准教授)

趣旨：最近角間キャンパスの運動施設のあり方について問い合わせの機会が多くある。これを機会にいろいろな問題点を明確にし、今後の活用方法について意見を集約し、問題解決の糸口にしてみたいと思う。

角間への総合移転後徐々に老朽化が進み更新を必要とする施設がある一方、未だ移転計画の中で進行していない野球場のような施設もある。大学の運動施設は授業用・課外活動用・一般福利厚生用(学生教職員)・社会貢献用等多彩な活用が行われている。しかし、その運営は使用者自身に任されている部分が多く破損等によるケガの発生や悪天候時の練習場の不足など多くの問題点がある。今回はグラウンドやテニスコート等の屋外施設についての問題点について参加者とともに解決策も含めて議論を行う。

○●○ BEAT セミナー参加報告 ○●○

2010年9月4日、東京大学 情報学環・福武ホールにて BEAT Seminar「外国語教育のソーシャルイノベーション」が開催され、パネルディスカッションの指定討論者として参加した。

最初に株式会社レアジョブ 代表取締役 CEO 加藤智久氏よりなぜレアジョブというサービスを始められたのか、なぜ講師がフィリピン人の方々なのか、サービスの概要などお話があった。講師としてフィリピン大学という日本でいう東京大学ランクの大学の現役学生、卒業生を実際に採用活動を通じて採用し、Skype を使ったマンツーマンで行う、オンライン英会話サービスを展開している。25分 129円からという業界でも低価格でサービス提供をしている。レアジョブの Web ページから講師を選択し、時間を予約し、Skype で受講する。登録会員数も増加中であり、業界におけるサービス認知度も競合サービスと比較し、断然大変高い。ビジネスマンを主なターゲットとしており、ビジネスマンがアクセスしやすい時間でサービスを受けることができる。深夜1時まで開講しており、予約も開始5分前まで可能になっている。

加藤氏はただ単に英会話を価格破壊するためにフィリピンの講師を採用しているわけではない。フィリピンと日本の間に生じる文化的誤解の解消と、今後ますますの文化的発展、交流を目指している。フィリピン初の世界的企業にしたいという思いがあり、単なる事業を進めるという意味を越えた、深さがあった。

ランゲート株式会社 代表取締役 喜洋洋氏はランゲート社で提供している"Lang-8"のサービス内容について説明があった。学びたい言語を母語とする人たちとテキストベースのコミュニケーションを通じて交流をするものであり、そのコミュニケーション過程において、母語話者が修正して、意味を再解釈し、コミュニケーションを続けるというものである。修正されたところも赤字で表示され、わかりやすい。対応言語数は参加者に依存する。つまり、参加者の出身国分対応できるということである。事業開始の時は日本ではあまり広報を行わず、アメリカを中心に外国で広報をされていた。それは日本人は精神的に外国、外国語に対する自信度が低く、シャイであることもあり、コミュニティが活発化しないことを懸念されていたことがある。ユーザーは興味があるテーマを中心にテキストによりコミュニケーションを通じて学習でき、時間を掛けて考えながら学習言語を入力できるため、学習言語の能力に自信がなくても、負担はかなり軽減される。実際に外国語の方と自分の関心が高いテーマについて話をするので、現実性が高く認識され、学習しているという認識を弱め、気軽な学習環境を提供できている。50分間もずっと修正をして下さるユーザーもいる。海外にはこのようなLang-8を気に入り、CMを作ってYouTubeにアップして下さる方もいるということであった。日本では教員が学生にLang-8を使った課題を出すケースもあるということであった。

パネルディスカッションでは私が最初に外国語学習におけるソーシャルメディア利用において、重要になる理論を紹介し、課題について提案をした。議題のポイントは外国語学習に限らず、学習にソーシャルメディアを利用するにあたって、気を付けるべきはインフォーマルなコミュニケーションを支援し、学習の動機付け、さらには活動に結びつけることで、この点のデザインをどうするのかでした。テストをする、私語をしない、させないという旧来から続く教育観だけではソーシャルメディアの学習利用は難しい。あくまで対面などメインになる媒体における学習との接続点として利用するのが良い。ソーシャルメディアでは人間関係の充実化を主に、モチベーションを高め、緩い学びを目指す方が良いことと提案した。レアジョブ社、ランゲート社ともに話す内容について深く入るのではなく、当事者に任せる部分を大幅に認めている点がある。レアジョブ社では教科書に沿う会話がメインではあるが、講師、学生の共通の趣味がある場合は会話が盛り上がり、相手に対する親近感が高くなるということであった。

外国語学習におけるソーシャルメディアの利用に関するものは実践は多いが、研究としては日本では研究の域までに達しているとは言えないものが多い。海外では結構盛んで、EuroCALLではコンピューターを介したコミュニケーションツールを使った学習環境について考えるグループが存在する。日本でもソーシャルメディアの教育利用に関して、研究が進み、理論的背景にもっと心理学の観点を踏まえた研究と実践が活発化することを願うばかりである。
(文責：教育支援システム研究部門 山田政寛)

- ・レアジョブ <http://www.rarejob.com/>
- ・Lang-8 <http://lang-8.com/>
- ・EuroCALL <http://www.eurocall-languages.org/>

○●○ スタッフの研究論文が研究奨励賞を授賞！ ○●○

本センター教育支援システム研究部門の山田政寛准教授が、発表研究論文にもとづき、日本教育工学会より研究奨励賞を受賞されました。受賞対象論文は、

山田政寛, 北村智, 宮原詩織, 山内祐平 (2009) 「Conomi+: 協調フィルタリングを用いた英語学習支援システムの開発」日本教育工学会第25回全国大会講演論文集, 391-329頁

で、「教育工学における研究、ならびに実践への展開において、優れた研究成果である」と評価されたことが受賞理由です。日本教育工学会が扱う「教育工学」は人文社会系と理工系そして人間に関する学問分野を融合した学際的な学問で、文部科学省の科学研究費補助金の研究領域の分科細目の1つとなつて学問領域として大きく認められています。当学会は1984年に設立され、会員数は毎年増加し2008年時点で約2500名を擁しています。